

**売上DIはやや悪化し、マイナス圏へ 業況・採算DIは横ばい**  
**第178回中小企業景況調査(10月～12月期)**

今回調査では、プラス圏で推移していた売上DIがマイナス圏へ突入し、来期も更なる悪化の見通しとなった。一方、採算DI、業況DIは、マイナス圏での横ばいで推移した。  
 特に、製造業、卸売業、小売業の売上DIが大幅な悪化を示し、目立つ結果となった。需要の停滞による売上の減少となる一方、仕入価格や人件費、輸送費等の高止まりで、業況や採算DIは横ばいとなった印象である。全業種において、人手不足感が強く、設備や建物の老朽化という意見も多い。今後は金利上昇による金利負担増の影響も出てくると予想される。物価高騰が早期に解決する見通しもなく、徐々に価格転嫁が浸透してきたとはいえず、更なる販売単価の交渉は避けられず、難しい局面となる。

**売上DI 今期・来期ともに大幅な悪化**  
**製造業**

製造業の今期売上DIは5.9(前回27.3)と大幅な悪化を示した。業況DIもまた△14.7(前回3.0)と同様に大幅な悪化となった。  
 来期見通しの売上DIは、△8.8(前回21.2)と大幅な悪化。業況DIは、△8.8(前回、△6.1)と横ばいとなった。  
 今期・来期とも売上DIが大幅な悪化を示した。原材料の上昇分を徐々に価格転嫁しつつも、受注量が減少した。諸外国の動向も不透明なことから今後も不安が残る結果となった。

**今期売上・業況DIは横ばい**  
**来期はやや悪化を見込む**  
**建設業**

建設業の今期売上DIは10.7(前回10.7)と同じ結果となった。業況DIもまた、3.6(前回3.6)と同値となった。

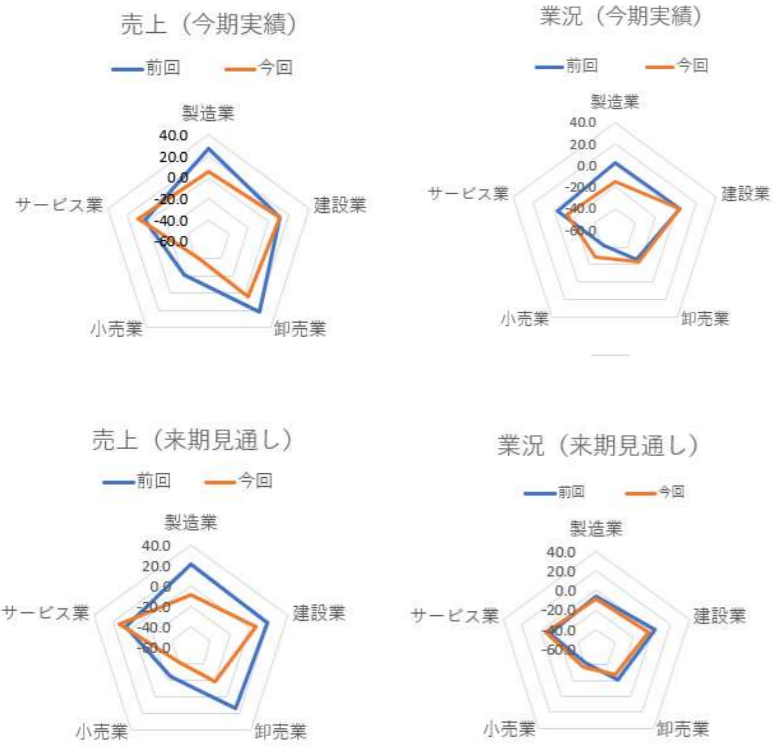
**今期・来期の売上DIは大幅悪化**  
**業況DIは横ばい**  
**卸売業**

来期見通しの売上DIは7.1(前回17.9)とやや悪化を示した。業況DIもまた△3.6(前回3.6)とやや悪化した。  
 今期の売上・業況DIは同値となり、横ばいとなった。来期はやや悪化を見込む結果となった。人件費の上昇が続く中、人材確保が難しく、今後も受注機会を逃してしまうことが懸念される。  
 卸売業の今期売上DIは3.8(前回21.7)と大幅な悪化を示した。業況DIは△23.1(前回△26.1)と横ばいとなったが、DI値のマイナス幅が大きいの。  
 来期見通しの売上DIは、△19.2(前回13.0)と大幅な悪化となり、業況DIは△26.9(前回△21.7)と横ばいとなった。  
 仕入値や運送費等の物価上昇分を価格転嫁するよう努力するものの、販路を拡げられず、売上の停滞・減少に大きな影響が見られた。

前回調査比	売上		業況	
	今期実績	来期見通し	今期実績	来期見通し
製造	↓	↓	↓	→
建設	→	↓	→	↓
卸売	↓	↓	→	→
小売	↓	↓	→	→
サービス	→	→	↓	→

凡例 (少数点以下は四捨五入)

~-16	-15~-6	±5	+6~15	+16~
↓	↘	→	↗	↑
大きく減少悪化	やや減少悪化	横ばい	やや増加好転	大きく増加好転



**売上DIの悪化が顕著に**  
**来期の見通しも厳しい**

**小売業**

小売業の今期売上DIは、△41.7(前回△20.8)と大幅な悪化を示し、業況DIは△29.2(前回△41.7)とやや改善した。  
 来期見通しは、売上DIが△41.7(前回△25.0)と大幅な悪化を示し、業況DIは、△37.5(前回△41.7)と横ばいとなった。  
 1. 業況DIの悪化が目立つ結果となった。売上DIの悪化が目立つ結果となった。あらゆるものの物価が上昇し、購買意欲の低下を招いている。今後は、当地域においても、インバウンド需要の取り込みが課題となる。

**売上DIは横ばい、業況DIはやや悪化**  
**来期の見通しは横ばい、サービス業**

サービス業の今期売上DIは、9.7(前回3.4)とやや改善となった。一方、業況DIは△12.9(前回△3.4)とやや悪化となった。  
 来期の見通しは、売上DIが12.9(前回6.9)とやや改善を示し、業況DIは△6.5(前回△10.3)と横ばいとなった。  
 価格転嫁が徐々に進み、顧客は受け入れつつあるが、購買点数の減少による客単価の低下や来店頻度の減少に繋がっていない。アルバイトを募集しても応募がない状況が見られ、売上の維持に苦慮している。最低賃金の上昇や仕入、運賃の値上げなど資金繰りの悪化が懸念される。

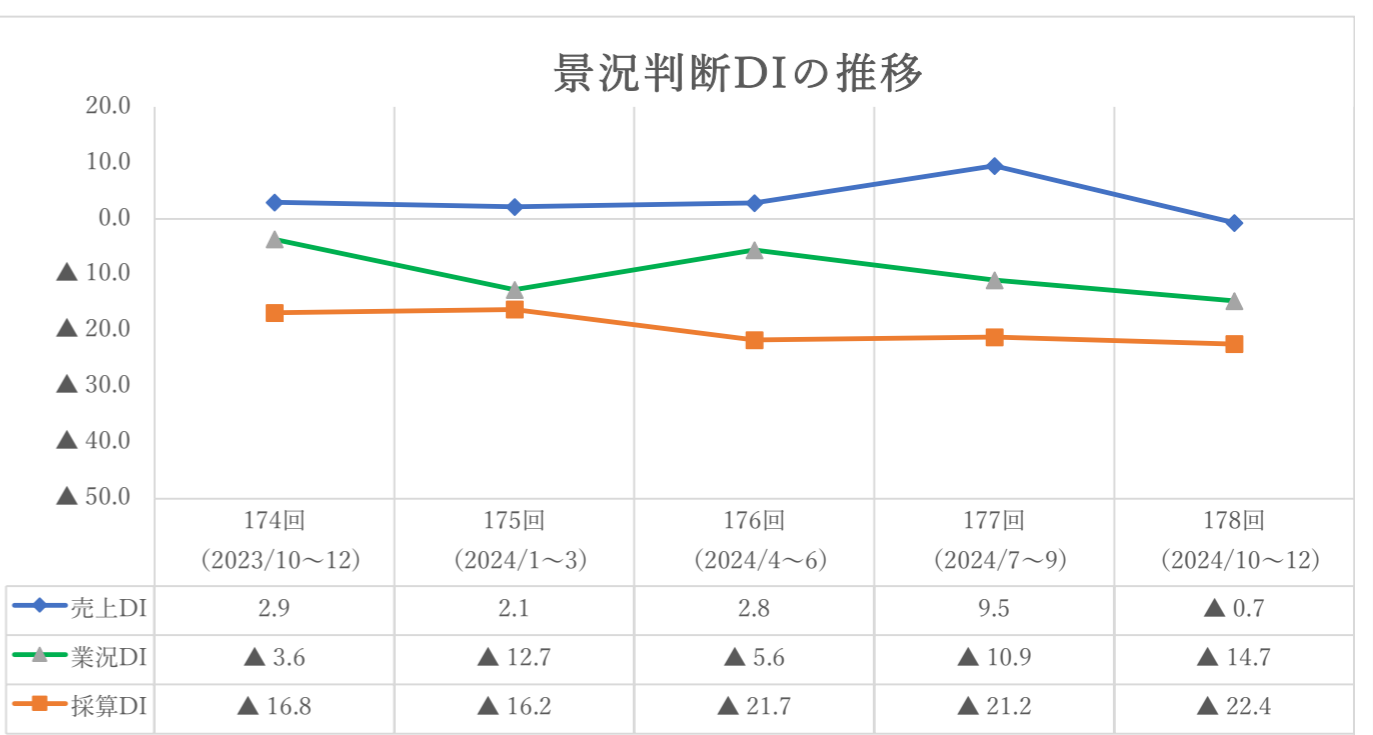
**事業者からの声**

- ・ 原材料・運賃など変動費は上昇しているが、販売価格に転嫁できていない。(プラスチック製品・製造業)
- ・ 人手不足により作業工程に遅れが生じたり、繁忙期の人材確保が難しい状況にある。(建築・建設業)
- ・ 為替相場の影響による原材料の高騰など問題が山積みである。(食料品・卸売業)

- ・ 今期は目標を達成したが、来期はあまり良い状況ではない。(化学製品・卸売業)
- ・ 業況は年々悪化するし、後継者もいないので廃業を検討している。(寝具・小売業)

- ・ 消耗品や仕入価格の上昇、消費行動の縮小と全体的な値上げに影響を受けた形で客単価の低下、消費の底上げが重要なため、補助金よりも先に税制優遇措置を行って欲しい。(ペット関連・小売業)

- ・ 原材料、水道光熱費、人件費、カード手数料の上昇により利益が減少した。求人も募集をしても応募がない。(専門料理・飲食業)



DI 値 (景気判断指数) = (増加・好転の回答割合) - (減少・悪化の回答割合)